

全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライタラス

第44号 2006.12.25 (季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937 / FAX 03-5389-0078

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>



宮崎県日南市での第12回全国棚田サミット。ミニカントリーウォークの光景

「棚田サミットで新たな『絆』を！」

第12回全国棚田サミットを終えて

谷口義幸

宮崎県  
日南市長

「棚田・未来への継承～人の絆が棚田を創る～」をテーマとして、延べ1,450の方々をお迎えし、「第12回全国棚田(千枚田)サミット」が感動のうちに幕を閉じました。

棚田のある坂元集落の先人達は、約70年前、茅場を開墾し、その後、泥と汗にまみれ、身の丈ほどもある石垣にへばりついて草を取り、棚田を守ってこられました。しかし、全国のほとんどの棚田は、高齢化や後継者不足などの問題で存廃の危機にあるのが実情です。

即ち、「日本の農業の原風景」と言われる美しくもやさしい棚田を坂元地区も含め、どう未来へ継承するか、その継承のキーワードとなる「絆」を今回の課題に取り上げました。

お陰で近年、オーナー制度などによって棚田を守り、未来へ引き継ごうという農村と都市の人々による交流の「絆」が創り出されています。Iターン者やUターン者も含め、その魅力を知っていただき、全国へと広がっていくことを期待しています。

今回のサミットが、これまでと大きく変わったことを紹介しますと、1つには、予算を3分の2程度と、大幅にカットしたことです。

その理由は、棚田を持つ中山間地の自治体は、ほとんどが財政難で、本市の後の開催地が決まりず大変困っていました。コンパクトな大会にしたこと、また、中島峰広氏をはじめとする選定関係者の皆様のご尽力により再来年まで決まってほっとしたというのが本音です。

今ひとつは、たくさんのボランティアの皆さんの参加をいたいたことです。

市内はもとより、東京など全国各地からたくさんの希望があり、そのため、地元グループには、「縁の下の力持ち」になっていただいたようなケースも出て、実に申し訳なく思ったほどです。

また、2日目の現地では、王子バンドやオカリナ演奏とともに、何と言っても酒谷小・中学校の生徒による発表やシングアウトキッズの歌声が、黄金色の田んぼに響き渡るなど「おもてなしの心」が参加者全員に大きな感動を与え、棚田保全の堅い「絆」を再確認したところです。

今回の「手づくり」のサミットで、多くの新たな「絆」が生まれ、次期開催地の栃木県茂木町へ引き継ぐことができたことに感謝申し上げ、お礼といたします。

# 棚田(千枚田)サミット大成功!

## 宮崎県日南市にて—2006年10月6日(金)～7日(土)

さる10月6日～7日、宮崎県日南市にて第12回全国棚田(千枚田)サミットが開催された。真夏を思わせる晴れやかな天候のもと、熱気にあふれ、あたたかなもてなしに満ちた棚田サミットとなった。1日目は、全国各地からの基調報告、パネルディスカッション、交流会が行われた。2日目は坂元棚田でのミニカントリーウォークが実施され、そこで地元小学生の事例発表や子どもたちによるガイドや歌など、地域密着型のサミットが展開された。

号、17号が日本への上陸を窺っていました。昨年のように棚田への被害をもたらすのか。そんな思いの中、台風は我々の気持ちを察してか、宮崎にかかる雨雲をすべて払いのけてくれました。おかげで、前日までの雨も止み、これ以上ない天気で第12回のサミットは、10月6日(金)7日(土)の2日間、開催されました。

今年の開催テーマは、「棚田・未来への継承／人の絆が棚田を創る」とし、全国に存在する棚田(千枚田)の維持保全をいかに図つていくかを議論するため、北は北海道、南は沖縄まで全国33都道府県から2日間延べ1450名余りの人々が集まりました。

開会式で全国棚田(千枚田)連絡協議会長の愛知県新城市長、穂積亮次氏のあいさつや来賓の皆様のあいさつをいただきながらサミットがスタートし、基調報告では、全国の棚田の保全活動の報告を行いました。都市部と地方の棚田を取り巻く状況やそれぞれの棚田の取り組みを報告する中で課題が見えてきました。

この基調報告を受け、中島峰広氏(早稲田大学名誉教授)と沢畠亨氏(熊本県水俣市愛林館長)の2人3脚のコーディネートのもと、棚田の継承について、基調報告で明らかになった課題を会場といつしょに討論しました。

全体交流会では、会場内に飫肥杉や稻の掛け干しを装飾して日南の雰囲気の演出を施し、加工グループ、JA・漁協女性部、地元女性部、道の駅酒谷等がすべて手作りで提供した本当の郷土料理を日

10月に入り、太平洋の南では、台風16号、17号が日本への上陸を窺っていました。昨年のように棚田への被害をもたらすのか。そんな思いの中、台風は我々の気持ちを察してか、宮崎にかかる雨雲をすべて払いのけてくれました。おかげで、前日までの雨も止み、これ以上ない天気で第12回のサミットは、10月6日(金)7日(土)の2日間、開催されました。

今年の開催テーマは、「棚田・未来への継承／人の絆が棚田を創る」とし、全国に存在する棚田(千枚田)の維持保全をいかに図つていくかを議論するため、北は北海道、南は沖縄まで全国33都道府県から2日間延べ1450名余りの人々が集まりました。

開会式で全国棚田(千枚田)連絡協議会長の愛知県新城市長、穂積亮次氏のあいさつや来賓の皆様のあいさつをいただきながらサミットがスタートし、基調報告では、全国の棚田の保全活動の報告を行いました。都市部と地方の棚田を取り巻く状況やそれぞれの棚田の取り組みを報告する中で課題が見えてきました。

この基調報告を受け、中島峰広氏(早稲田大学名誉教授)と沢畠亨氏(熊本県水俣市愛林館長)の2人3脚のコーディネートのもと、棚田の継承について、基調報告で明らかになった課題を会場といつしょに討論しました。

南焼酎といっしょに舌鼓を打つて頂きました。

また、マグロの解体ショーや郷土芸能である泰平踊り・女相撲踊り・獅子舞等、盛りだくさんのアトラクションを披露し、歓迎の意を表しました。

2日目の坂元棚田ミニカントリーウォークは、予想以上に参加者が多かつたことと坂元棚田までのアクセスが悪いことから、参加者の皆さんには早朝からバス移動して頂きました。ありがとうございました。実は、小中学生を含めたスタッフも超早朝から対応しなければなりませんでしたが、当日のすばらしい天候と参加者の皆さんの温かいお褒めの言葉に睡魔も吹き飛びました。

棚田を散策して頂いた後、事例発表では、酒谷小学校が坂元棚田の出来事を二ユース形式で発表したり、棚田の歴史を二

南焼酎といっしょに舌鼓を打つて頂きました。

また、マグロの解体ショーや郷土芸能である泰平踊り・女相撲踊り・獅子舞等、盛りだくさんのアトラクションを披露し、歓迎の意を表しました。

2日目の坂元棚田ミニカントリーウォークは、予想以上に参加者が多かつたことと坂元棚田までのアクセスが悪いことから、参加者の皆さんには早朝からバス移動して頂きました。ありがとうございました。実は、小中学生を含めたスタッフも超早朝から対応しなければなりませんでしたが、当日のすばらしい天候と参加者の皆さんの温かいお褒めの言葉に睡魔も吹き飛びました。

棚田を散策して頂いた後、事例発表では、酒谷小学校が坂元棚田の出来事を二ユース形式で発表したり、棚田の歴史を二

主催の市から

## 2日間で延べ 1450人が参加！

宮崎県日南市農林水産課 安部裕二

発表しました。また、シングアウトキッズからは、棚田サミットテーマソングの披露を含め、歌の発表を行いました。

続いて、共同宣言では、坂元棚田耕作者を代表し、後継者の石灘豊紹氏が棚田の保全継承を宣言しました。

閉会行事では、次期開催地の栃木県茂木町の古口達也町長のあいさつの後、日南市長からお礼のあいさつを行い、両市町議長を含めた堅い握手を交わしました。

最後に酒谷中学校の坂元棚田への思いを群衆で宣言し、エコ風船を飛ばしました。このとき、参加者の皆さんには、涙する方もおられ、棚田継承の思いをひとつに束ね、第12回サミットは、感動を皆さんに提供し、終了することができました。

今回のサミットは、今後のサミットの継承をどうするかといったテーマも含まれており、開催経費の縮減を視野に入れ開催しました。そのため、会場に冷房設備を準備しなかったり、それぞれの参加料を頂いたりしたことに対し、様々なご意見を頂きました。また、全国の棚田の事前アンケートやステージ絵画を含めた会場装飾・案内看板等を手作りで行い経費節減に徹したところです。

色々な面で参加者の皆さんに行き届きの面があつたことをお詫び申し上げ、日南市民総出のスタッフの「おもてなし」の心でカバーできればと対応した次第ですでの、何卒、棚田継承の思いを同じくする仲間ということに免じてご了承願えれば、幸いに存じます。

未来へ継承すべく、棚田関係者の皆さん、これからも共に頑張りましょう。



サミットの最後、酒谷中学校の生徒たちが棚田へ思いを託し、エコ風船を飛ばした



全体交流会では、地元のさまざまな伝統芸能に魅せられた

# 第12回全国



事務局の  
新城市  
から

## 私たちの思いが 全国に発信できた！

愛知県新城市経済課農政グループ 栗田真文

10月6日～7日、宮崎県日南市において「棚田・未来への継承～人の絆が棚田を創る～」をテーマに第12回全国棚田（千枚田）サミットが開催されました。会員の皆様はじめ、全国各地から延べ1450名の方にご参加いただき盛会裏に終えることができました。

サミット開催には全国の会員の皆様、また、ご来賓、一般参加者、行政関係者と多くの方に多くなご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

1日目は棚田保全の取り組み、また、後継者不足など棚田が抱える問題について活発な意見交換がされ、2日目の坂元棚田では子どもたちの活躍は大変印象的でした。棚田テーマソングを歌ったシンガーアウトキッズの歌もすばらしく、こちら（愛知県新城市）の新聞にも掲載されました。改めて、棚田保全の意義や必要

性を再確認し、この棚田を次の世代へと引き継いでいこうとする私達の思いが全國に向け発信できたと思います。

さて、サミット開催に先立ち、6日午前9時から理事会と総会が開かれました。次期サミット開催地については、昨年9月に立ち上げられました「サミット開催地選定委員会」の活動にもよりまして、第13回（平成19年度）は栃木県茂木町で、第14回（平成20年度）は長崎県雲仙市・長崎市共催で開催されることが承認されました。その後のサミット開催についても、現在、いくつかの自治体が名乗りを挙げております。大変、うれしいニュースです。

また、会員募集の件ですが、昨年に引き続き、棚田保全選に選定されている市町村及び棚田保存活動をされている団体へのダイレクトメールなどで紹介を行ない、新規会員の獲得に努力しています。また今回、棚田連絡協議会の案内と入会申込書が一緒になつたチラシを作成いたしました。会員の皆様も会員募集に是非ご協力をお願いします。事務局へご連絡いただければチラシを送らせていただきます。その他、よい企画案などもありましたらご連絡ください。

来年のサミットは栃木県茂木町で開催されます。開催に向けて着々と準備を進めさせていただいております。会員皆様の大勢のご参加をお願いします。

パネル  
ディスカッション  
司会助手から

## とともに棚田を議論して

熊本県水俣市愛林館 館長 沢畠 亨

今日は、私は話す機会を与えていただき、どうもありがとうございました。

千葉県鴨川市以来の参加となりました。今回は分科会がなく、せっかく全国から集まつた方々から話を聞く機会が少なかつたのが残念です。「交通費の実費だけ出でから来てね」ということで分科会のまとめ役や事例発表者を集めてはどうでしょうか。環境自治体会議の水保大会ではそのようにして、質の高い分科会報告を聞くことができました。

そんな中、私には壇上で発言する機会を与えていただいたので大変嬉しかったです。嬉しい余り、事例報告が長くなつて申し訳ありません。パネルディスカッションの時間では、二人の進行役というのには、良いやり方だと思いました。特に、壇上の方々の現場を訪れている中島先生は、各地の景色が見えた上での発言をさ

れるので、すぐ説得力がありました。私は各地の様子は知らないのですが、私の住む水俣市久木野地区から類推は十分にできます。高齢化や後継者難にも毎日触っていますから、「どう取り組むか?」という会場からの質問には、簡単には答えが出ないこともよくわかつています。

それで、できの悪い議会答弁のようなつまらない話にならないように「答えはない。開き直りと言わば言え。」とわかりやすく言ってみたのですが、会場の皆さんはどう感じられたでしょうか?

会場からの質問票は、言いたいことを短い字数で書いてあるので、私が実際に質問した時には、本来の意図を外したこともありました。壇上で短い時間で整理したという条件に免じてお許し下さい。

さて、私の一番言ひたかったのは、山村の公益的機能にもっと経済的評価を与えてほしい、農地と森林への直接所得補償を増やしてほしいということです。九州農政局の局長さんが会場においてなので、最後に「他の補助金はいらんから、直接所得補償を今の10倍ほしい」と言つたわけですが、後の交流会で何人の方から「私もそう思う」と言つていただき、大変心強い思いでした。

もう一つ、司会助手としては「場内爆笑」という場面を作り出すことも重要なテーマでした。今回は年齢層や関心事など、話の通じる聴衆が多くつたので、こちらもまずまずでした。

今後も、世論には上のよう訴えながで、話の通じる聴衆が多くつたので、どちらも笑顔で迎えてください、とてもほのぼのとしたあつたかい気分にもなりました。

自治体  
正会員参加者  
から

## どの人も笑顔で迎えてくださった!

鹿児島県湧水町(旧栗野町)農林課 竹崎博輝

10月6日(金)・7日(土)、第12回全国棚田(千枚田)サミットが宮崎県日南市で開催され、湧水町から棚田のある幸田地区の代表7名とともに参加しました。また、驚いたのは昭和の初めに整備された棚田ということで、山の斜面に沿つて長方形の田んぼ一枚一枚が整然と幾何学的に並んでおり、何か古代遺産でも見るような感じでちょっと不思議な感じもしました。

平坦地の基盤整備された田んぼとは違

い、余計な労力がかかるため、米の価格

が下がっている今の時代に、棚田で自分

から進んで米を作ろうという農家はいな

くなってしまうのではないかと思います。

幸いにして湧水町については、地元の農家が平成8年度に棚田の保全と米の付

加価値を付けた販売を行おうといふこと

で幸田棚田米生産組合を設立し、現在は

鹿児島市内のデパートを中心に販売を展

開しているため、耕作放棄という心配は

ないのかなと思つております。

最後に第12回を数えている全国棚田(千枚田)サミットですが、このサミットが大々的に開催されることで、全国の棚田の保全活動につながると考えますので、これからもとぎれることなく開催していただけたらと思います。

た。

湧水町でも棚田関係のいろいろなイベントを開催しておりますが、地元の農家の方の協力がなければ成功しません。町外のお客様を迎えるのは行政ではなく、行政は裏方に徹して、お出迎えをするのは地元の農家のおばちゃんの方がいいなあとこのことも感じました。

基調報告・パネルディスカッションについては、やはりどこの棚田でも問題なのは、後継者不足であるということを感じました。湧水町でもそうですが、棚田の維持についてはかなりの労力がかかります。湧水町幸田の棚田についても日南市坂元棚田と同様、石積みの棚田ですが、この石垣の草を取るのが大変だということを地元の方から聞きます。



中学生たちが、ミニカントリーウォークのガイドを受け持ち、大好評！



パネルディスカッション。写真左が沢畑氏

杉木立ちの急峻な山道を登ってゆく。

空は一片の雲もない。空気が乾いている。雨が降ることを忘れたのだ。やがて、キャンバスから切り抜いた実りの秋の風景が我々と対峙するよう目に飛び込んできた。

坂元棚田である。その全貌が望める位置に展望台がこしらえてある。飫肥杉が林立する山肌にここだけが周囲からして人の生活がある。その空間が黄金色という約束と、そして、身じろぎもせず、言葉を失わせるように迫ってくる。

今日は地元の中学生による、ミニカントリーウォーク。なかなかの名(?)がアイドである。棚田での学習や活動を交えながら、先頭に立って説明してくれる。方形の田んぼの中を登り始める。今でいう効率と利便性に配慮した見事な棚田群である。先人の英知がここにも伺われる。当時、きっと秀でた人物がいたに違いない。畦道の幅が意識して広く作つてあるのも、ひょっとしたらこの地の水事情があつたかも知れないと一人想いを馳せていた。

稻のでき映えも良い。葉色がいい。きっとタンパク含有量の低い、美味しい米



事例発表をしたシングアウトキッズがお見送りの歌を歌ってくれた

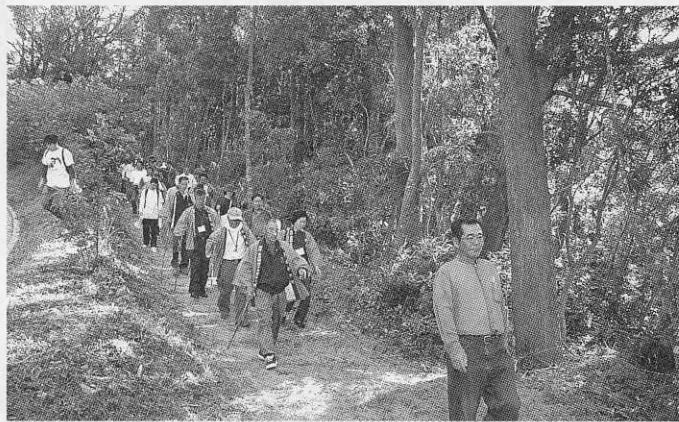
## 農家の 参加者 から ミニカントリー<sup>ちぢわ</sup> ウォークに参加して

長崎県雲仙市千々石町 農家 山本哲郎

に出来上がっているはずだ。

——子どもたちの話に戻そう。小学生から中学生の子どもたちが初日からこかしこに出演する。オリジナル曲を歌つたり、棚田での体験事例を発表したり、大活躍なのだ。子どもらとこの地域の人々が必死で守ろうとした豊かな関係がここには確かにいると思う。棚田を見る、学ぶ、識ることに依つて、何が見えてくるのか示唆させてくれた。もし、あの場に彼らが居なかつたら……どうだろう……。現下、残念ながら私たちは物の豊かさを享受しながら、その影で、子どもたちの命の重さと心の痛みの処方箋を時代という大きなねりに翻弄され、出してこなかつた。命の尊厳と経済の成長という二律背反の大きな命題を問うこと避けてきた。日本の文化の原点であるはずの稻作。連綿と次代へ伝える勇気と自信が必要だ。年々歳々、全てが変わってゆく中で、何百年、何千年と変わることなく、持続でききならそれも素晴らしいことに思える。おぼつかない豊かさの反面、最も大切な部分を問う作業が欠落したまま、大人が歩いている。千年単位で育まれてきた稻作文化は何だったのか。そういう意味でも、それに気づいて、次代の子どもたちに説明できる社会であつて欲しい。

つまり、確かに豊かな文明がその頂点で人々の幸福と結ばれなかつたのは何故だということ。それに気づかせない日常性もさることながら、棚田の持つ最大の深い意義がそこにあるような気がする。日本の原風景は景観ではない！ 文化そのものである。



建設業者のボランティアで造られた歩道も!



坂元棚田で酒谷小学校の事例発表。ステージは棚田



石畑の棚田

今年の日南サミット、大変すばらしかったですね。坂元棚田の壮大さや子どもたちの合唱は今でも目に焼きついており、コンシエルジュ役の地元中学生からは温かいおもてなしを頂いて、とても感動しました。来年は茂木町の番ですが、事務局の私は今から不安でいっぱいです。(笑) ところで、茂木町は栃木県の南東部に位置し、全国棚田百選にも選ばれた「石

次回開催地  
茂木町から

## 来年は美しい土の里「もてぎ」で会いましょう！

栃木県芳賀郡茂木町農林課 伊藤 崇

いに田が広がる、いわゆる「畑の棚田」など美しい農村風景が広がる自然豊かな町です。山あいの沢沿

茂木町ならではの棚田サミットにするため、町民が一丸となって準備に励んでおりますので、全国各地から大勢の皆様のお越しをお待ちしております。

来年の夏は、「美しい土の里」 茂木で

その他の、栃木県第一号の「道の駅もてぎ」や、国内最大級のモータースポーツ施設である「ツインリンクもてぎ」など見所も盛り沢山です。

さて、来年のサミット（8月24・25日予定）ですが、棚田の現地見学のほか「有機物リサイクルセンター美土里館」の見学やオーナー制などむづくり活動の紹介、栃木県内各市町の観光物産PRなどを予定しています。また、中山間地域が抱える農業の諸問題を議論し、現場からの政策提言を全国に向けて発信していくたいと考えています。さらに、交流会では地場の食材を使った料理や、県内各地の特産品「オーナーを設置し、温かいおもてなしで皆さまを歓迎する予定です。

る「谷津田」が形成されており、その地形から「耕して天に至る」と言われています。法面は土羽で、水源は天水に頼っています。また、むりづくりが熱心で、各種オーナー制度を始めとする都市と農村との交流が盛んに行なわれ、年間の交流人口は240万人を越えています。さらに、平成15年には「有機物リサイクルセンター美土里館」を開設し、地域の有機資源から優良な肥料を生産し、人と自然が調和した環境にやさしい循環型農業を進めています。

# 新しく自治体正会員が増えました

全国棚田（千枚田）連絡協議会の自治体正会員は、現在56市町村です。棚田の保全・利活用、また中山間地域活性化を目指しています。今回、新しく自治体正会員が増えました。各地域からのお便りです。

## 新潟県十日町市

十日町市は、新潟県南部の長野県との県境、千曲川が信濃川と名前を変えて間もないところに位置します。東京からは約2

00 km、新潟市からは約100

kmの地点にあります。

市東側には魚沼丘陵、西側には東頸城丘陵の山々が連なつ

てあります。中央部に日本一の大河信濃

川が南北に流れ、十日町盆地とともに雄大な河岸段丘

が形成されています。農業では市の中心

成長期から着物産業が大きく成長し、主産業として栄えましたが、昭和50年代以降生活様式の変化

と共に衰退し、現在に至るまで出荷額や従業員者数が減少して

きました。農業では市の中心

地域では農業法人等が設立され、西部の中山間地域には渤海川が南北に流れ、流域には集落が点在し、棚田が広がり美しい

星峰の棚田

十日町市は新潟県内でも最大

農山村の景観を呈しています。

平成17年4月1日に旧十日町市、

川西町、中里村、松代町、松之

山町の5市町村が新設合併して

新十日町市が誕生しました。旧

松代町、松之山町は合併前には

全国棚田連絡協議会に加入して

いました。

産業面では昭和30年代の高度

成長期から着物産業が大きく成長し、主産業として栄えましたが、昭和50年代以降生活様式の変化

と共に衰退し、現在に至るまで出荷額や従業員者数が減少して

きました。農業では市の中心

地域では農業法人等が設立され、

西部の中山間地域では稻作を柱にしながらも花、園芸、山菜等との複合営農が取り組まれています。しかし、後継者不足、高齢化等が進む中で農業の担い手不足が深刻化して

おり、今後の地域農業の継続に大きな課題を抱えております。

十日町市は新潟県内でも最大

もに全国からたくさんの方々

が訪れていました。

この地域の水田管理の特徴と

して、棚田の水を保持するため

に秋に肥料を入れて代播きをす

ることがあげられます。そのため

10月末になると棚田には水が

張られて春と同様の水鏡の水田

に戻ります。秋には当地は霧が

発生しやすく霧の中に朝日が差

しこみ、水田の水鏡に反射して

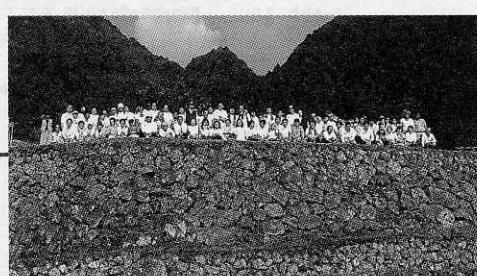
幻想的な風景がかもし出されます。

人気の秘密もこの辺にあるので

しょうか。

（十日町市松代支所地域振興課  
柳 利彦）

級の棚田地帯であることから日本の原風景とも言える景観が随所に残されており、ここ数年全國から大勢のカメラマンが写真撮影に訪れています。特に松代地元の棚田は等高線上に並ぶ、美しい曲線模様の水田が広がることから大変人気があります。



## 事務局ニュース

事務局、愛知県新城市からのお知らせコーナーです

団体正会員に入会されたアストラゼネカ（株）の社員の皆さん74名が11月1日に愛知県新城市の四谷の千枚田に奉仕作業にみました。初めてのことでしたが、地元保存会の小山舜二さんはじめ地元の皆さん方が快く引き受けた準備をしてくれました。結果として、棚田もきれいになりました。千枚田を見るのも、農作業も初めての体验であった社員の方も「すがすがしい気持ちをいただいた。また、来たい！」と笑顔で帰られました。棚田の持つ力、農村の持つ力を改めて感じました。

年会費の納入が遅れている方がいらっしゃいます。お早めに納入をお願いします。また、住所、団体名、代表者名等登録内容に変更がある方は事務局へ連絡をお願いします。

# 熊本県球磨村



松谷棚田

球磨村は、熊本県の南部、球磨郡の最も西に位置しています。東を人吉市及び山江村、西を葦北郡芦北町、南は水俣市及び鹿児島県大口市、北は八代市坂本村に接する東西13km、南北25km、総面積207.73km<sup>2</sup>と広大で、その88%を山林が占める山岳地帯にあります。

村の中央には、日本三急流の「球磨川」が東西に流れ、川を挟んで北に白岩山(1001m)、南に国見山(969m)など700m以上の山々がそびえており、これらの山岳を縫って大小無数の川が球磨川に注いでいます。

年間平均気温は、摂氏15.99度(最高32.11度、最低0.99度)で冬季と夏季の寒暖の差が大きく、やや大陸的変化のある気候とな

っています。降雨量は比較的多く、年間2,300ミリを超えます。人口は4,944人(平成18年11月1日現在)で、過疎化、高齢化が進行しています。

農業は村全体が山岳地帯となつてゐる地形的条件から、水田、畑地等のまとまつた農地は少なく、大部分は追田等の棚田を利用しています。1戸当たりの水田経営面積は33a程度と零細であり、圃場整備地区は、全水田面積の7.5%程度で、10a未満の水田が点在し、水稻を基幹作物として果樹(梨・栗)、タバコ、施設園芸(イチゴ・メロン)等を組み合わせた複合経営が主体で、近年では、梨狩り・いちご狩りツアーホームはじめとした観光農業にも力を入れています。

また、JR九州ウォーキングのコースにも組み込まれ、いまや数少ない農村風景が参加者の心を和ませています。

しかしながら、この素晴らしい景観の背景には、数十年の年月をかけ積み上げた棚田とその棚田に水を引くために「石引き」で4km先まで石を運んで水路を造り上げた先人の血と汗と涙の歴史があります。そのお蔭で「松谷棚田」は、未だに農村文化の原風景を留めており、その自然造形美は人々の目を和ませ、のどかな時間がゆっくりと過ぎています。

石井里津子

当地区は、球磨川に流れ込む那良川の中流部に位置し、総世帯数28戸(人口81人)の中で兼

業農家16戸、専業農家1戸の稲作と果樹(梨)栽培を中心とする総農地面積10haの小さな集落です。明治の時代に切り開かれた棚田は、山の中腹より扇状に広がる棚田で、下段につれて広くなり、対岸からの眺めは広大であり、農業の生産基盤のために開拓されたものとは思えない美的センスさえ感じさせるものがあります。

その形状から生産効率は悪いが、育った米の食味への評価は高く、ここに米を原料にした球磨焼酎が非常に好評です。毎年4月には棚田をヒマワリでいっぱいにしようと「花いっぱい運動」を開催しており、都市住民を巻き込んだ交流を展開しています。また、JR九州ウォーキングのコースにも組み込まれ、いまや数少ない農村風景が参加者の心を和ませています。

素晴らしい第12回全国棚田サミット、主催者側のみなさま、ほんとうにありがとうございました。参加されたみなさんから「とくに子どもたちが素晴らしい!」とお聞きしています。実は、わたし自身は行けずに口惜しい思いをしております。私事で恐縮ですが、妊婦で体調不安定なため、見送った次第でした。棚田や農村の大切さを子どもたちにどうやって伝えるか、わが子どもたちで実験せねばと思っています。

新しく会員になったみなさま

<個人賛助会員> 古川五十四

(鹿児島県鹿児島市)

## 編集後記

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織  
**全国棚田(千枚田)連絡協議会**  
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局  
愛知県新城市 鳳来総合支所 経済課農政グループ

Tel: 0536-32-1984 FAX: 0536-32-1170  
協議会HP: <http://www.yukidarama.or.jp/tanada/>

